

環境協定拒絶はおかしい 辰巳参院議員が国会質問

辰巳孝太郎参院議員は16日の参院国土交通委員会、リニア中央新幹線(東京・品川―名古屋間)の工事実施計画を提出したJR東海が、前例のある環境保全協定を拒否している問題を追及しました。



環境保全協定はこれまでリニア実験線(山梨県)建設や北海道新幹線建設の際に、地元自治体や漁協とJRなどが結んでおり、今回は長野県などが求めています。国交省の藤田耕三鉄道局長は「(協定締結は)当事者間

でよく話し合っていたきたい」と述べ、無責任な姿勢を示しました。辰巳氏は「前例もあり、JR東海が拒絶するのはおかしい。国が指導すべきだ」と厳しく指摘しました。

辰巳氏は、リニア建設によって景観が激変し、10年間にわたって1日1700台以上の工事用車両が生活道路を往来する長野県大鹿村で、議会が「工事実施計画の認可をしない」よう求める意見書を全会一致で可決したことを紹介。知事が「観光、環境に影響する」として残土を搬出するトンネル(同県南木曾町)の削減を求めている、JR東海が「事業の工期から難しい」と拒否している実態を突きつけました。

「春日井リニアを問う会」設立総会に52名

10月18日、春日井市総合福祉センターにおいて「春日井リニアを問う会」設立総会が開催されました。52名が参加しました。

「リニアができるころにはこの世にいない」とまわりの人は関心が低くても「自分のふるさと長野県

自然を壊すのは許せない」と参加されたかたもありました。

「汚泥水の処理が非常に困難と思われる」「リニアが亜炭廃坑の下を通るので、陥没が心配だ」「土地が陥没した際の補償はどうなるのか。ボーリング調査で安心などといえるのか信

頼できない。市民の側が調査できないか」など、意見が出し合われました。

また、前日に国土交通大臣がリニア工事の着工を認可したことに対して「抗議文」を採択。ただちに国土交通省に送りました。

リニア凍結を――労山がアピール採択

日本勤労者山岳連盟(労山)は11、12の両日、静岡県島田市で開いた全国登山者自然保護集会で、「リニア新幹線計画は拙速に行わずに凍結し、南アルプスの大自然の環境保全の国民的議論を実施することが必要」とするアピールを採択しました。

南アルプスの地下を貫くりニア中央新幹線問題をメインテーマとした同集会では、静岡県環境影響評価審査会会長を務める静岡大学の和田秀樹名誉教授が講演。南アルプスは日本で一番隆起している地域で、県内を通る11kmの間にも無数の断層がある」と指摘しました。世界でも例のない工事に環境への影響は専門家も「イメージがわからないところがいっぱいある」

と話していることを紹介し、「取り返しのつかないことが起こるかもしれない。国民が危険性を判断して声を出すことが大事」と警告しました。静岡労山の竹本幸造理事長は、県内の山岳団体とともに知事や静岡市長にたいし、残土を南アルプスの溪谷に捨てないよう要望書を提出するなど計画に反対してきた活動を報告。「東京―名古屋間をたった1時間短縮するために世界に誇る自然が壊される。自然を愛する岳人はノーと言わなければならない」と訴えました。

集会には日本山岳会の近藤雅幸・自然保護委員長や日本共産党の桜井洋子島田市議も参加しました。

リニア拙速に進めるな――「朝日」が社説

「朝日新聞」は、18日付社説でリニア認可をとりあげ「人口減少時代に入り、地方の衰退が深刻な今の日本にリニア中央新幹線を整備するのがふさわしいか、慎重な判断を求めてきた」と指摘。ところが、「国の姿勢は一貫して『リニアありき』だったといわざるをえず、残念である」と表明します。

さらに「工事説明会や用地買収はこれから本格化する」「国交相も地元住民らに丁寧に説明し、理解と協力を得るよう、JRにくぎを刺した。肝に銘じてもらいたい」「工事はあくまで安全と環境保全を最優先に進めるべきだ。27年の開業という目標ばかりにこだわってはならない」と強調しています。